

蟹田・脇野沢航路に係る新船建造について

蟹田・脇野沢航路に係る新船建造について御報告いたします。

1. 負担額の提示について

むつ市脇野沢と外ヶ浜町蟹田を結ぶ、青森県の第三セクター「むつ湾フェリー株式会社」の現行船、カーフェリー「かもしか」は、平成10年の就航から今年で24年を経過し、老朽化した船体が更新時期を迎えていることから、青森県では、新船建造の検討をしております。

新船の建造費につきましては、約22億円となり、青森県によると当市の負担は9,669万円になるとのことでありました。

この負担については、今後の協議事項であり、決定されたものではありませんが、今月に入り、あたかも負担の在り方が決定したかのように報道がなされております。

2. これまでの経緯について

次に、これまでの経緯についてであります。本年9月8日及び11月11日に、青森県、むつ湾フェリー株式会社及びむつ市を含む関係13市町村による担当課長会議が開催され、当市からは「新造船のスペック」、「今後の収支計画」について、詳細の説明を求めたほか、「航路を維持するための市町村との連携」、「新船建造について県が全て負担するなど、持株以外の負担について」、「青森・脇野沢航路の検討について」等の考えを提案しております。

また、会議においては、「航路の必要性」、「利用促進策」、「避難航路」、「新船のコンセプトや仕様」、「新船建造の負担方法」等について協議・検討されました。

この結果を踏まえ青森県は、蟹田・脇野沢航路は、県内全域に経済波及効果があること、また、避難航路としての活用が期待されること等の理由から、航路は必要であるとの合意に至ったと判断し、新船建造に係る建造費等を試算した上で、11月30日、青森県企画政策部次長がむつ市を訪問し、その内容が説明されたところであります。

3. 新船について

新船については、コンセプトを「津軽半島と下北半島の地域振興に資する船」、「むつ湾の自然環境を味わえる快適で楽しい船」、「乗る人全てにやさしい船」、「災害時に対応できる船」とし、運航性能を「利用者にとって魅力があり、地域の安心安全にも寄与し、冬季運休期間中の船体の貸出や災害時の避難支援等での活用を想定し、むつ湾以外の外海での運航が可能な船」として検討を進めることに決定したとのことであります。

一方、本市が提案した青森・脇野沢航路の検討につきましては、新船が青森市内の港を利用するには、港の改修が必要となり多額の費用を要することから、難しいとのことであります。

次に、新船建造の費用につきましては、現行船の「かもしか」と同程度の船を想定した場合には約22億円となり、その建造費の負担につきましては、鉄道運輸機構から資金調達を行う15億4,000万円を県が負担し、残る6億6,000万円を会社、県及び株を所有する13市町村の持株比率に応じて按分し、むつ湾フェリー株式会社が6,600万円、青森県が3億2,326万円、外ヶ浜町が1億2,482万円、むつ市が9,669万円、残る11市町村が4,923万円を負担するスキームとしたいとの説明を受け、最終的な建造費につきましては、令和7年度に竣工を予定していることから、令和6年度までには示したいとのことであります。

4. むつ市の考えについて

11月30日の青森県の説明を受け、本市からは、「県内全体の波及効果があり、避難航路の位置付けもあるのであれば、県が全額負担すべきではないか。」、「前回のかもしか建造時とは異なり、地方分権が進み県と市町村の関係性が変化しており、市町村合併により市町村自体も変化している中で市町村に負担を求めるのは何故か。」、「持株比率に応じた負担となる理由について、合理的な説明をいただきたい。」と伝えたところであります。

5. 今後について

今後についてであります。新船建造の負担に関しては、担当課長会議で提案され、議論されるものと認識しており、青森県からは、今月19日に開催する第3回担当課長会議において、むつ市としての考えを発言していただきたいとの依頼があ

り、この会議で、負担を決定する可能性が高いものと認識しております。

以上、蟹田・脇野沢航路に係る新船建造について御報告させていただきます。